

る。下端を折損する。文字は二字あり、その下が空くことから元来二字であったと考えられる。二字目が「借」であり、文意がわかりにくい。あるいは付札木簡に例のみられる「鯛膳」の二字目の偏の肉月とすべきところを人偏としたのかもしれない。

(2)は、上端が折損するとともに、割截されている。四文字が推定され、「石津酒足」と人名を記したものと判読される。

なお、木簡の釈読にあたっては、向日市文化資料館の清水みき氏のご教示を得た。

9 関係文献

（勅京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報』第四七冊（一九九二年）

（石尾政信）

埋蔵文化財写真技術研究会編

『埋文写真研究』 第三号

文化財写真の研究、技術、情報など、写真を撮る人だけでなく、写真を使って報告書を作る人、これを読んで情報を得る人まで、文化財調査に関わる人々に必携のマニュアル書。年刊で現在三号まで刊行されている（第一号は品切）。

B5判 カラー図版多数 一七〇頁

定価三〇〇〇円 送料四冊まで五〇〇円・五冊以上無料

申込先・〒六三〇 奈良市二条町二一九一

奈良国立文化財研究所内

埋蔵文化財写真技術研究会 佃 幹雄 宛

TEL 〇七四二一三四一三九三一

郵便振替 京都五一九九三〇 埋蔵文化財写真技術研究会